

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第2回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登いのうえ ひろと

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「木登り」

高い位置の大きな枝を払ったり、優良な種子を採取したり、架線集材機かせんしゅうさいきを使用するために支柱とする木に器具を取り付けるといった目的で、木に登ることがありました。

しかし木登りと言いますが、途中の枝も少ない成長したスギやヒノキなどに登るのは



「かんじき式」 昭和三十年頃、妻籠営林署
(現在の木曽森林管理署南木曽支署管内)

容易なことではありません。このため、木登り用の道具が使われました。「かんじき式」は木登り用のスパイクのようなものです。「ぶりなわ式」は麻縄あさなわの両端に棒を付けたもので、足場を作りながら登ります。

ヘルメットも着用していない高所の作業であり、現代の労働安全に対する感覚からすれば恐ろしい風景でもあります。



「ぶりなわ式」 昭和三十一年、上松営林署
(現在の木曽森林管理署管内)



「木登風景」 昭和三十一年頃、付知営林署
(現在の東濃森林管理署管内)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、QRコードを読み込んでください。

